

## ドイツにおける高等教育改革

アスマン・シュテファニー

日本では二〇〇四年に国立大学法人化が実施され、高等教育改革が出発した。ヨーロッパにおいては一九九九年に、ドイツ、フランス、イタリアやイギリスなどをはじめとした二十九ヶ国がボローニャ宣言にもとづく高等教育改革（ボローニャ・プロセス）を開始した。現在までさまざまなか協議会で目標などが再検討され、四七カ国に拡大している。

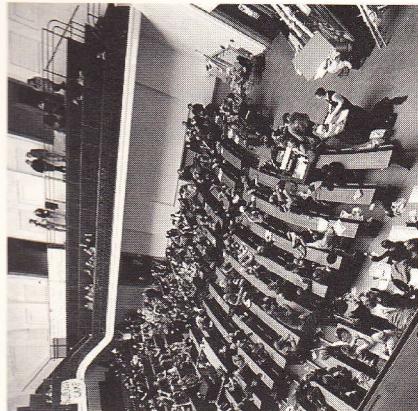
### 1. ボローニャ・プロセス<sup>(1)</sup>

ボローニャ・プロセスの一つの目標は学位と単位の互換性である。その制度はECTS（European Credit Transfer System）と呼ばれ、ヨーロッパの大学で得た単位を別の大学で承認できる。学位の互換性によりヨーロッパ内での就職活動が容易になった。

見があり、賛成者は、学位の適合性、高等教育の実践性を歓迎しているが、批判者はファンボルト的理念との矛盾を指摘し、学問の自由が失われることに懸念を示している。ファンボルト的理念では、高等教育の目標は研究と未来の研究者養成であり、教育と研究との調和が重要だと考えられてきた。職業訓練はいわゆる専門大学（Fachhochschule）の役割であった。

### 3. 学生の声

一〇〇九年に、全ドイツの学生一万六〇



（ドイツの大学の講堂）

ロッパ内の学生、教員の流動性を高めるとともに、ヨーロッパ外の国々人々にとつての高等教育制度の透明性と理解を深め、ヨーロッパの教育地域としての魅力を高めようとしている。

### 2. 「学士号」と「修士号」

ボローニャ・プロセスの特徴は、一つの学位、すなわち「学士号」（Bachelor）と「修士号」（Master）に段階化することである。「学士号」は六学期以内で取得でき、そのことにより学生の早期就職活動を可能とする。「学士号」以上の資格を希望する学生は、修士課程に進学し、さらに四学期で「修士号」を得ることができる。その後博士課程へ進学する可能性もある。この教育構

造の階層化には一つの目標がある。

1. ヨーロッパの学生をほぼ同年齢で修了させ、職業生活につかせる。とくにドイツにおいて「学士号」はこれまで存在しない新しい学位で、高等教育の改革前に入学した場合は「修士号」（人文系はMagister、理工系はDiplom）の学位によって修了するかたちが過例であった。しかし、修士号取得まで長い時間を要し、その結果、学生の平均年齢が上がり、二七二八歳で大学を卒業する学生もいた。「学士号」が導入され、学生の平均年齢を下げる傾向が明らかになつた。小学校から高等学校修了（大学入学資格Abitur取得）までの期間が一三年から一二年に短縮され、さらに二〇一一年三月以後、ドイツ政府が男性の義務兵役制度の廃止を決定したことで、より早期に高等教育に進学できるようになった。

2. 大学教育が職業生活のための実践的な準備となつた。以前の一一年学期（六年間）で「修士号」を得る際の学生の研究の自由や卒業時期決定の自由度と比較して「学士号」は卒業までのカリキュラムが明確に規定されており、学生の自由度が低くなっている。

ボローニャ・プロセスにはさまざまな意

見があり、賛成者は、学位の適合性、高等教育の実践性を歓迎しているが、批判者はファンボルト的理念との矛盾を指摘し、学問の自由が失われることに懸念を示している。ファンボルト的理念では、高等教育の目標は研究と未来の研究者養成であり、教育と研究との調和が重要だと考えられてきた。職業訓練はいわゆる専門大学（Fachhochschule）の役割であった。

一・ボローニャ・プロセスの目標のひとつに、単位互換制度（ECTS）を利用して、ヨーロッパの各大学で得た単位を別の大学で承認させる制度がある。しかし、留学経験のある学生によれば、単位の互換が実際に行われていない場合もある。

二・ボローニャ・プロセスは学生の移動性を高めることをめざしているが、「学士号」は六学期以内で取得するよう想定されているので、留学は時間的制約から困難であるという傾向が明らかになつた。

三・同様に「学士号」取得までの時間的制約から、学生は厳しい時間管理が求められる。そのため、一学期間で六単位以上を取得する学生も珍しくないが、六学期内で必要とする単位が取得しきれない場合は、就職活動に問題が生じる懸念がある。

四・「学士号」と「修士号」はドイツにお

ける新しい学位であるため、とくに「学士号」取得者の若すぎる年齢やその能力に疑問を呈する雇用者もいる。そのことで、ボローニャ・プロセスの目標の一つである、卒業者の雇用可能性の改善が実現されない懸念がある。

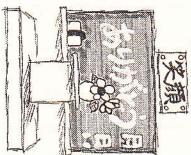
この結果から、学生の間ではボローニャ・プロセスに関するいくつかの疑問があるといふことが明らかになつた。ボローニャ・プロセスが導入されて十年以上が経過しているが、改革の重要な目標である学位と単位の互換性、学生の移動性、雇用可能性の改善の実現が徐々に遠のいているとも言えなくはないからう。

### 注

(1) Bundesministerium für Bildung und Forschung(ed.), Der Bologna-Prozess, 2011. <http://www.bmbf.de/de/3336.php>,

(2) Schäfer, Sarina und Markus Sauerwein, Bologna-Umfrage. Der Bologna-Prozess aus Sicht der Studierenden, 2009. <http://www.bolognaufrage.de/>.

(Stephanie Assmann = 秋田大学教育文化学部准教授)



■特集Ⅰ／若者と貧困・就活・仕事	なにが若者支援政策か	イ・タビト	日本社会保障の基本性格と「新しい福祉国家」構想 後藤道夫 23	青年の職業的自立への道と... - からの復興を視野において	大震災が問いかげた学ぶこと、働くこと	生徒のための学校づくりから進路支援を考える 藤田 敏 43	誰かな就職保障の実現をめざして	授業：アルバイトの契約書をもらつてみる 井沼淳一郎 64	外部資源を生かした高校の「キャリア支援セータ」の試み 菊地 信二 50	支援の必要な生徒の就労支援実践	特集Ⅱ／崩壊する地域のなかで教育の希望を探る	地域文化と開かれた学校づくり	子どもたちと経験の組織化	若者自立支援 - 1年 安達俊子・安達尚男 82	より深く地域に根ざして	学校は地域の灯台であり続けるか 原貞次郎 91	長野県の地域高校調査から	*シンボジウムの質疑応答から 細金恒男 100	投稿
■特集Ⅱ／「みえない雲」	壁になるる風景⑦	世界の子ども・若者事情⑨	吉益敏文 120	吉村昭「三陸海岸大津波」と「おじの眼」	被災体験を書くといふこと	「考える」ことの回答	井上正允 102	教員免許更新講習を通して「数学教育の課題」を考える	アマノ・シユテニア 116	ドイツにおける高等教育改革	沈黙の職員会議	今、学校で⑦	子どもと本『みえない雲』	扉のことは...	発行社変更のお知らせ	編集後記	読者会案内一覧	カツ・高原憲子	